

系教調

男子

オオカミ様と

子猫ちゃん

①

あづみ悠羽

原作:榎原まき

イラスト原案:つきのおまめ

オパール
COMICS

オパール
COMICS

いつからだろう

別れようか

……え？

人から向けられる
好意に

喜びよりも
強い恐怖を感じる
ようになったのは



わかっている

俺が愛する女性

俺を心底愛してはくれない



だから

深雪 みゆき

君だけは――

気配り上手で優しく
いつも穏やかで紳士的

落ち着いた
大人の男である彼に
わたしは密かに
憧れていた

綺麗……

綺麗だねえ





そっか



か…

彼氏はいない…ので



鞍馬主任こそ…

女性の影がないって
みんな噂してるけど

わたしたちは
大手システム管理会社の
営業部の上司と部下



クリスマスに
出張だなんて
高田さん

彼氏に
怒られたんじゃないか？

同行するはずだった同僚が
体調を崩したおかげで

憧れの上司と
二人きりという
シチュエーションに
胸を高鳴らせている
わたしがいる

ホテルまで
もう少し歩くことだし
屋台で何か食べるかい？

えっ
いいんですか？

無事商談も
まとまったんだ

これぐらいの息抜き
したってバチは
当たらないさ

…なんか…

デートみたい…

彼氏がいたことないから
想像でしかないけど…

でもわたしは
お腹いっぱいなので
やめときます

そうですね

そう？

じゃあ俺は
たこ焼きを
買ってくるね

ここで
待っていて

はい

ツツジ？

冬なのに？

お待たせ

どうしたの？

おかえりなさい

一つだけツツジが
咲いてるんです

本当だ

狂い咲きってやつか

珍しいですよ

こいつは自分が
狂っていることに
気がつかないのかねえ

自分が周りと
違うって

周りと違っても
いいじゃないですか

イルミネーションより
綺麗だよって
見て欲しいのかも

…なるほど

好きで咲くと見るか
狂っていると見るかで
印象が変わるね



冬のツツジも
いいものですね

「狂い咲き」も
とっても綺麗



おっと

せっかくの
たこ焼きが
冷めてしまう



ごめん

お腹いっぱいって
言っていたね

い…いいえ

いただきます！



おいしそう
ですね



うまいよ

高田さんも
一個どうぞ

えっ…あの





本当に
申し訳ございません
たしかに
一部屋キャンセルと
承りましたので私どもの
ミスでございます

代わりの部屋は
ないんですね？

ダブルが一部屋でしたら
空いているのですが…
近隣の系列ホテルも
本日満室でございます…



ダブル…

主任…他のホテルは
空いてますかね…？

うーん
厳しいかもな

週末でさらに
クリスマスだ
ですよ…



じゃ…あ
鞍馬主任と
同じ部屋に
泊ま…泊ま…っ

…よし

高田さんはここに
泊まりなさい

俺は他を当たってみて
空いてなくても
何とかするよ

え…





え…えつと

いやもちろん
俺は何かする
つもりはないよ

でも同じ部屋は
高田さんも
不安でしょう？

ふ…不安なんて
ありません

だって主任
ですから…

この緊張は

不安とは違う…別の何か

……



それは…うん
無条件に信頼されて
いる感じがして
嬉しいは嬉しいけど

…まあ無理なら
いつでも出て行くから
言って



言いません
そんなこと…

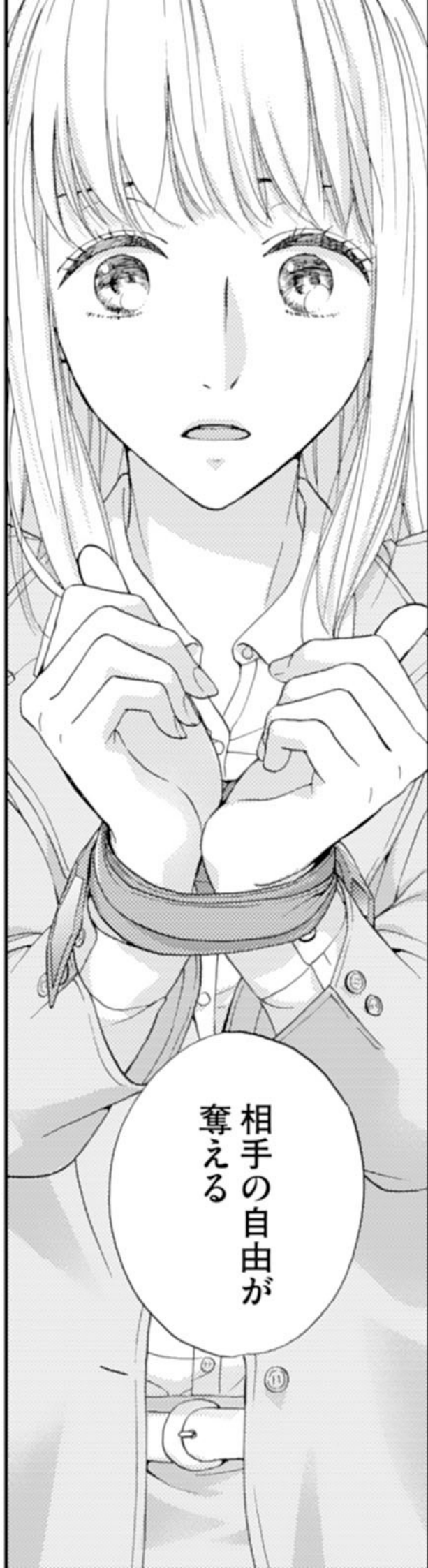
主任は
誠実な人だから

何かの
ハプニングなんて
起きないだろうけど…









相手の自由が
奪える



日頃からネクタイを
締めてるからかな

手慣れてる

どう？

ぎゅー



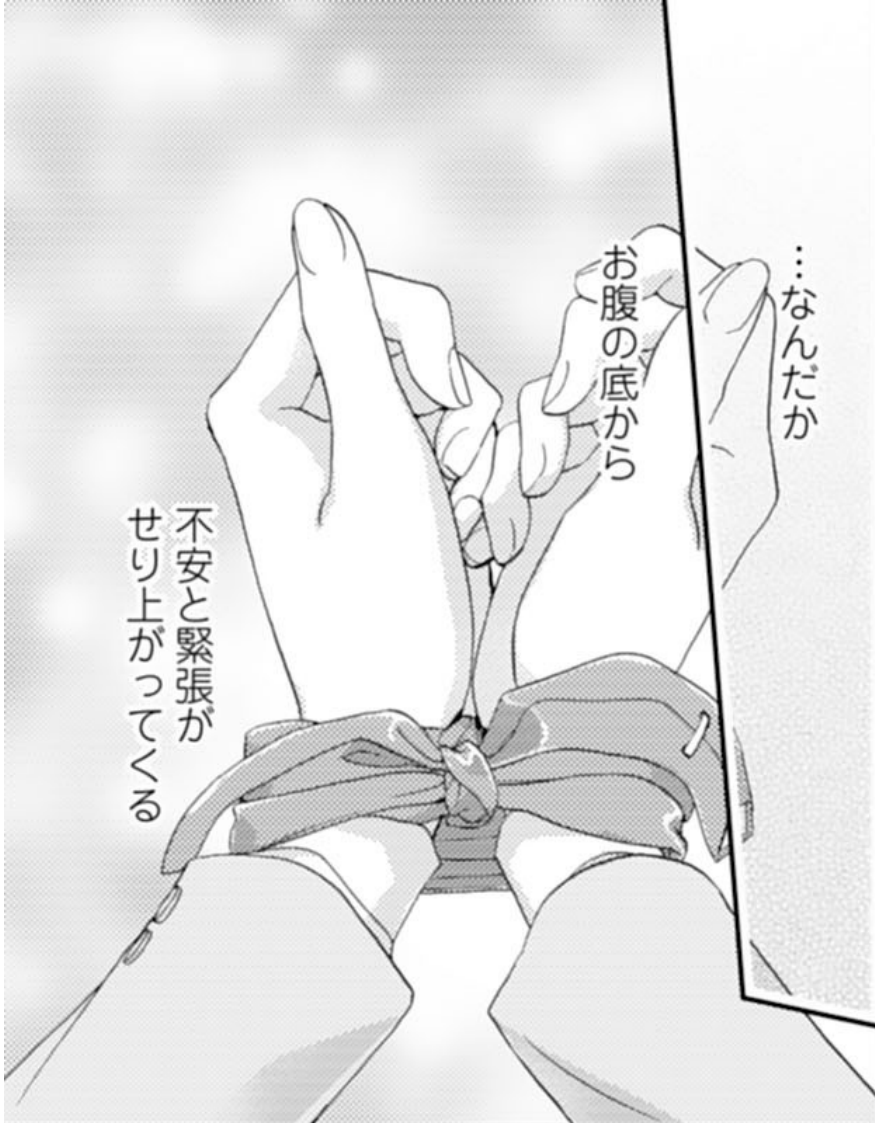
あ…すごい

ほどけませんね

巻きは多少
余裕を作っている



その代わりに
結び目をしっかり
すると手首を
痛めずに…







—そうだ

縛られた時
瞳の奥に何かを
感じたような…

ありがとう
シャツも脱がせて
くれる？

縛られた男の人を
脱がせるなんて

なんて背徳感——

は…い

いい匂いが
する…



こんな鞍馬主任
仕事中には見たことない

これが素顔なの？

じゃあ自分で
脱ぐから
ネクタイを解いて
もらっていい？

わたしは今
プライベートの
鞍馬誠司さんと一緒に
いるってことかな…

ありがとう

スッ

ニ
ユ
ル

しゅ

主任？

縛られる…？

さっきのよう

な…にを

ドッキン

ドッキン



俺の風呂を
覗かないように
拘束しとこうかなと
思ってたさ



また
からかって！

主任って案外
意地悪だったん
ですね



意地悪な俺は
嫌い？



からかわれる
くらい
なんでもない



そんなこと
ない…です

もしもこの人に
部下ではなくて
一人の女として
扱ってもらえるなら
きっと許してしまうだろう



なにをされても

きつと



え…？



…まず
弁解させて
もらうけど
俺は指一本
触れて
いない



なんでわたし
くつついて!?



昨夜はちゃんと
両端で寝た
はずなのに!?

なっ…なん…!



!!



はだけてるよ…？

浴衣…



そこだけは
誤解しないで
ほしい

その上で
その…





To be continued...



調教系男子 オオカミ様と子猫ちゃん①

著者 あづみ悠羽

©2018 Yuu Adumi

発行 プランタン出版

発売 フランス書院

※本作品の内容はすべてフィクションです。

※本書の無断複写・複製・転載・配信は、著作権法上での
例外を除き禁じられています。

系教調

男子

オオカミ様と

子猫ちゃん

2

あづみ悠羽

原作:榎原まき

イラスト原案:つきのおまめ

オパール
COMICS

オパール
COMICS

恋と気付いてから

鞍馬主任の近くに
いるだけで
息が苦しい

みんな今年も
お疲れ様

お客様の声を
よく聞いて来年も
頑張ってほしい

では乾杯!

かんぱーい

わたしは仕事に
身が入らない
ほどののに

主任の態度は
何も変わらない

飲んで
忘れる!

高田さん
そんなに飲んで
平気なのか?

大丈夫です
せっかくの
乾杯なので:

主任 金曜は
急に休んで
すみません

ああいいよ
宇佐美

高田さんが
すっかりフォロー
してくれたから

あの夜 あんなに
胸を高鳴らせていたのは
わたしだけだし

平然としている主任を
見ているだけで
胸が切なくなるのも
わたしだけ…

こんな気持ちになんか
気付かなければ
よかった

ちよつと
酔ったくらいじゃ
忘れられない…かあ

一人で
恋をするって
つらいんだ…

高田さん

主任

気分が悪く
なったのか？

い…え

あの…ただ
酔いを醒ましに

そう？



すみません…



無理して飲んで
いるようだったからさ

お酒弱いんだから
俺が代わりに飲んで
あげたのに



今だったら…

好きって
言っちゃっても…

酔っぱらいの
戯言だと軽く
流してくれる
かなあ…？



ホテルで同室でも
上司と部下という
関係は変わらなかった

誠実な
この人にとって
部下の告白なんて
負担にしか
ならないだろう

でも

ちゃんと
この気持ちに
区切りを
つけなきゃ

弱いわたしは

いつまでも
恋に縛られたままだ

…主任

あの

わたし…

わたし…

言え

言え

言うんだ

…しゅ

ん？

主任が

好きなんです

よかったらその…

付き合っ
てもらえませんか…？

—言ってしまった

嬉しいなあ…

断られたら
酔いのせいにして

明日から休みだし
家でいっぱい
泣けばいい…

えっ

瞳の

ぞくぞく…

あの夜と同じ
仄暗い——

俺も高田さんのこと
好きだったから

素直に
嬉しいよ

けど…
本当にいいの？

俺…基本的に
サドなんだけど

さどってなに？

でも今
わたしのこと
好きって

そ、
それでもいいです

お願いします！

わたしと
付き合っ
てください！

えっ

さど？

じゃあ
これからよろしく

うん
ありがとう



お付き合ってもらえるなら
私も頑張ってさ・どになる

自分を
変えることになって
なんの戸惑いもない



早く二人きりにな
りたいな

今から連れて
帰ってもいい？



高田さん
具合悪いの？

うわ顔
真っ赤じゃん



鞍馬主任が
送ってくれるなら
安心だね

お大事に！

よいお年を！

きっと誰一人
彼が送り狼になる
心配なんて
していないだろう



浮いた噂も
何ひとつ
なかった人だから

私だって
今の状況…

まだ
信じられない

念のために
聞くけど

は…い

酔っ払ってるから
告白をOK
しちゃったとか…

息からお酒の匂い…

主任はお酒に強いから
見た目はわからないけど

酔ってるから
俺に告白してきた
わけじゃないよね？

同じこと
考えてた

酔ってないです

顔は赤くても…
あの…赤いだけで
酔ってないです！

よかった

酒のせいにされたら
たぶんヘコむ

俺…高田さんのこと
本気だから

本気…

本気って…

ずっと高田さんのこと
好きだったんだ

言えなかったけど

職場での力関係が
ある以上
俺から迫るのは
ルール違反でしょう？

それに
大事な君に自分の
気持ちを押つけて
居心地の悪い思いを
させたくなかった

年も離れてるしね

だから
見てるだけで
よかったんだ…

なんて
誠実な人なの

こんな人に
想ってもらえてた
なんて

都合のいい夢を
見ているかのよう…

あ…



震えてる

怖い？

かきん



可愛い声だね

あとでゆっくり聞かせて…？



俺ももう我慢したくないし…ね？



お…男の人の部屋…初めて…なので

そう…緊張してるの？

可愛い



俺に告白してくれたってことは

俺のものになりたいってことだね？

…はい



俺さ

「付き合ってください」って
言われるより
「あなたの女^{もの}になりたい」って
言ってもらうほうが
好みなんだけど…

言い直してくれる…？

仕事の間違いを
優しく訂正するような

甘く…拘束力を持つ
声色

…しゅ…

主任の…ものにな
りたい…です

くいっ

名前…せ…

誠司^{せいじ}…さん？

もう一回

そうだな…今度は
名前で呼んで？

にこ



これが彼の素顔
なの…？

どくん…

どくん…

それとも
わたしだけに見せる
特別なもの？

もっと…笑って…

主任…ううん
誠司さん…

どくん…

彼が喜んでくれるなら
わたし…わたし…

わたしを…

誠司さんの
ものに

してください



なんでもできてしまう
かもしれない——

あれ…俺のために
言い方を変えて
くれたの？

仕事でも
いつも一生懸命で
ずっと可愛いと
思ってた

君の
そういうところ
すごく好きだよ

来て

カチッ

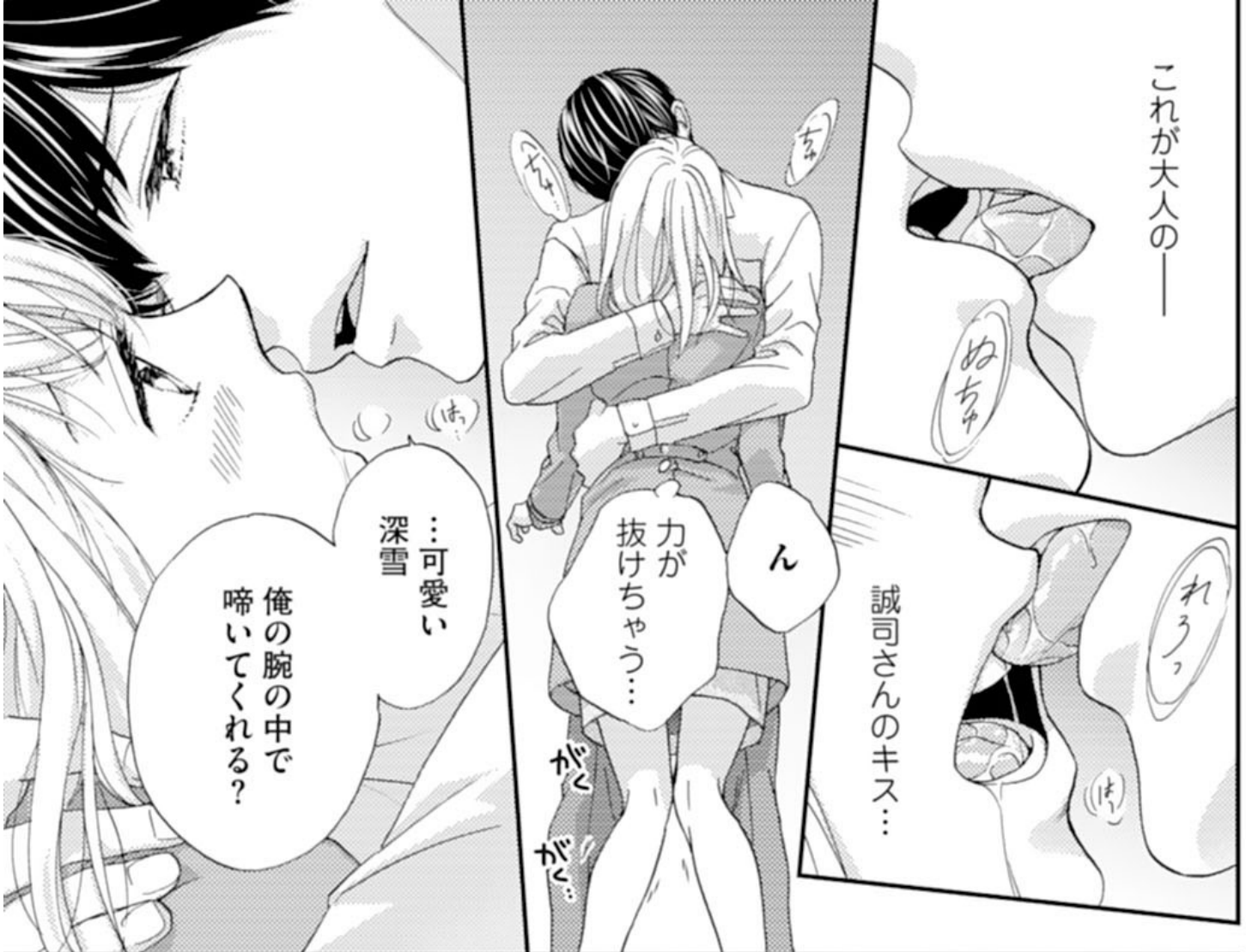
彼の…
シングルベッド

ビジネスホテルで
ベッドを共にしたことは
全然意味が違う

みゆき
深雪って
呼んでいい？

ッん

んん





そんなに
恥ずかしいなら
恥ずかしくないように
してあげる



どうして
顔を隠すの？

だ…だって

恥ずかしくて…



何をされているか
見なければ少しは
和らぐだろう？

わたしの…ため？
先に進むために…



え…

な…何を…？

大丈夫

怖くないよ

深雪は俺の女^{もの}に
なりたいてって
言ったね？

こり

黙ったまま
頷くのはだめだよ

ちゃんと
言葉にしないと
わからない

深雪のことを
誰よりも一番
大事にしたいんだ

君のために
なんでもしたい

だから君が
思っていること
して欲しいことを
なんでも知りたいし

言っ
て欲
しい
……
いい
ね？

色香を持った
低い彼の声……

背筋が
ゾクゾクする……

はい

わたしは……
誠司さんのもの
になりたいです

誠司さんのものに
してください……

深雪は本当に
素直でいい子だね

素直な君が
好きだよ

ドキ……

わたしも誠司さんが
好きです

ありがとう

じゃあ俺の願いも
聞いてくれる？

もちろんです

なんでも
おっしゃってください

彼が尽くすと
言ってくれるなら
わたしも彼に
尽くしたい

自分で
服をめくって
身体を俺に
見せなさい

柔らかいね

肌も張りがあって
すべすべだ

乳首も
可愛い色してる

んっ…

え…

あ…

は…い

大きな胸が締め付けられて
かわいそうだ

自由にしてあげるよ

あっ…

びるん

わん

他の男に見せたり
触らせたり
したことは？

…っ

見えない分余計に
敏感になってる…

んっ

な…ないです

誠司さんが
初めて…

もしかして
キスも俺が
初めてだったのかな？

んっ…

は…い

へえ…じゃあ

深雪の初めては
全部俺に
くれるのかな？

誠司さんに
全部あげます…

わたしを…全部

お願いします…

言わされてるんじゃない

わたし…心の奥底から
懇願してる

誠司さん…

いいね…その表情

心底ゾクゾク
するよ

あ…



さどってそういう
意味だったんだ…！

も…う
あまり虐めないで
ください…

あれ？ ホテルでさ
意地悪な俺は
嫌いじゃないって
言ってくれたよね？

俺に虐められる
のは嫌い？

彼のこんな一面を
見せてもらっているのは
わたしだけ…

…意地悪な
誠司さんも好き…

安心して

痛めつけたりなんて
酷いことはしない

する…

さあ

脚を
開きなさい

はあうつ

ぬ
130
…？

身体が内側から
こじ開けられるよう

狭いな

痛いかな？

いたく…ない

です

もっと虐めていい？

深雪の中に
たっぷり挿れて

突きまくって

…ア…

はうう

びく

指…増えて…
奥まで…

中がヒクついてきた

俺に抱かれない？

うんっ…うん

だ…いて…

…お願いします

わたしを
抱いてください

深雪の身体を
俺専用に
作りかえたりしてさ



ねえ
虐めていい？

返事は？



んっ

あ…あ

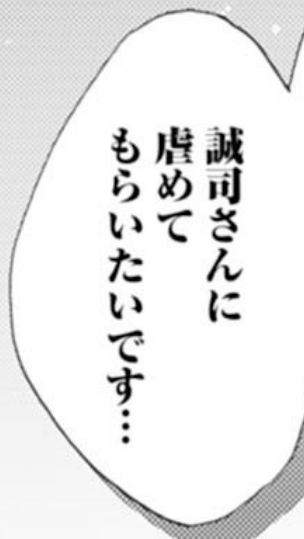
はい…



虐めてください…



わたし

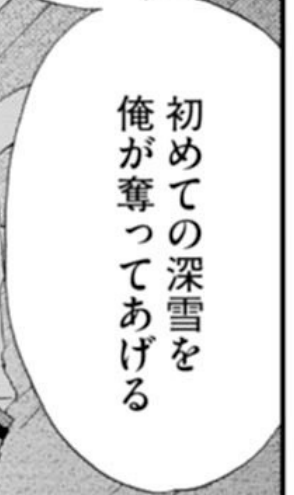


誠司さんに
虐めて
もらいたいです…



いい子だね

ちゃんと言えた
ご褒美に



初めての深雪を
俺が奪ってあげる



あ…

!!

はら…



抵抗せずに
心も身体も俺の女に
なりなさい

深雪

まがし...



ど...して

わたしはもう

あ...愛してます
誠司さん...

誠司さんの
ものになれて
嬉しい...です



深淵に似た瞳が

わたしをとらえて離さない

To be continued...



調教系男子 オオカミ様と子猫ちゃん②

著者 あづみ悠羽

©2018 Yuu Adumi

発行 プランタン出版

発売 フランス書院

※本作品の内容はすべてフィクションです。

※本書の無断複写・複製・転載・配信は、著作権法上での
例外を除き禁じられています。

系教調

男子

オオカミ様と

子猫ちゃん

3

あづみ悠羽

原作:榎原まき

イラスト原案:つきのおまめ

オパール
COMICS

オパール
COMICS

この三日間

ほとんどの時間を
彼に抱きしめられて
過ごした

好きだよ

そう
甘く囁かれ

蕩けるような
愛撫をもらった

…帰りたくないです…

元日の朝になり

予定どおり実家に
帰省しなければ
いけない…

だめだよ

親御さん深雪の
帰りを楽しみにして
いるだろうからね

あ…わたし
身勝手なことを
言っちゃった

ふん

ほん

誠司せいじさんのご実家は
どちらですか？

誠司さんも
里帰り
するんですか？

どんなご両親
なのかなあ？

真面目で
誠実な人の
ご両親だから
厳格な人たち
かもしれない

意外と真逆で
放任主義
だったか
するのかも

ああでも
やっぱり優しそう…



実家なんてない

俺は自分の父親を
知らないし
母親は俺が高校の頃に
再婚して子供もいるんだ

俺はそれからずっと
一人暮らしで
母親にも会っていない



えっ

抑揚のない声



俺は父親と生き写し
なんだそうだよ

母親は自分を捨てた男と
同じ顔に会いたくないと

その気持ちはわかる

俺も母さんと俺を
捨てた男には
会いたくない

悲しそうというには
あまりに

何もない表情――

鏡を見るたびに
うんざりする

……

…はい

こっちに戻る時は
連絡して

迎えに行くから

わたしには
温かく迎えてくれる
実家がある

彼には
それが無いのか

深雪は帰るところが
あるんだから
ちゃんと帰りなさい

ご両親を
大切に…ね？



彼の孤独は
どれほどのものなのか

すぐ帰ってきますから
待っていてくださいね

一緒に初詣行ったり
しましょうね

あ、
わたしおせちも
作りましょうか？



二人で
お正月しましょうね！

そうだね…

…ん

楽しみにしているよ

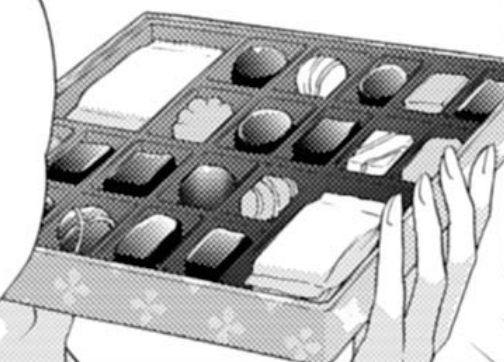
わたしが
誠司さんの居場所に
なれたらいいな…



明日は
バレンタインデー

わたしの
二十四回目の
誕生日でもある

はーい男性陣ー
女子からのチョコは
一人一個です



明日はお休みなので
今日中に食べて
くださいー

ここに置いて
おきますー

なんつーか…こう…
おやつって感じ…

個別にもらえ
ないと楽しみが
ないですよ…





俺なんか彼女と
別れたばかり
なんで…

みんな
聞き耳を
立ててる



仕方ないだろう
宇佐美

俺が入社する前
からの慣例だから
俺ももらったことは
ないよ

主任はどうせ
プライベートで
もらえるんでしょう!?



宇佐美は
いい男だから
すぐに次の彼女が
できるよ

さて雑談は
これくらいにして
仕事しようか

思い返してみれば
彼は職場では
プライベートを
何も明かさなかった

お茶をどうぞ



それでも今わたしと
付き合っていることは
職場で話してもいいとは
言ってくれたけれど

女性社員に人気の高い
ひとだから
トラブルを避けるため
内緒にするよう
逆をお願いしてる

ありがとう

悪いんだけど
このファイルを
資料室から取っ
てきてもらえる？



はい
かしこまりました



指…が

あ…
わたし…

濡れて…

彼が
「身体を作りかえる」
と言ったのは本当で



彼は職場では
何も変わらないのに

経験豊富な
大人の余裕…
なのかな



…はあ



…わたし
釣り合っ
ていない
んじゃない…



もっと頑張って
ちゃんとお仕事
しないと

彼女として
相応しくない
気がする！

ぐっ



ベッドの上で
隅々まで
愛されているから

もうわたしは
内側から
彼のもの

彼に褒められたい

認められたい

そして

もっと愛されたい

そのために
自分ができることをしたい

わ:
綺麗

このお部屋からも
船見えますね!

明日の
ディナークルーズも
期待してて

本当に
嬉しいです

今日は
お食事だけって
思ってたので

こんな広い
お部屋まで

可愛い深雪の
誕生日だからね

明日まで独占
させてもらうよ

あ...あの!

一日早いん
ですけど

ぐそ

これ
バレンタインの
チョコ...で

よかったら...
食べてください

俺にくれるの?



は…い

わたしを
差し上げます

この灰暗い瞳に
見つめられると
言うことをなんでも
聞きたくなってしまふ

俺と
セックスしたいなら
お願いして

だ…
抱いてください

お願いします

いい子だね

彼は自分のこと
サドだなんて
言ったけれど

いつも優しく
尽くしてくれる人の
どこが
サドなんだろう

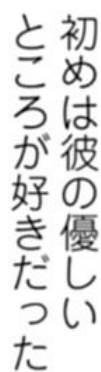
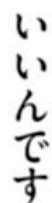
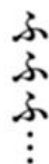
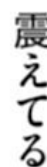
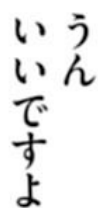
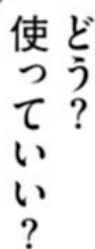
ベッドではちよつと
過激なことも
されちゃうけど…

今日はこれを
使っている？

なんですか？

ひゃあ!!

ホイッ



物好きだね

こんな男の
どこが
いいんだか…

今は彼の
別の一面を知って

両方を求めている
わたしがいる—

んっ
ちゅ

んっ
ちゅ
ねる

んっ…

んう

すごいね…

次から次に
あふれてくるよ

あっ

いやらしい女

ご…ごめんなさい…

嘲りにさえ
心を
揺さぶられる

謝らなくていいよ

素直におねだり
しなさい



見て

中をかき回されて
いる……!

あっ

っう

腰が動いてるよ
深雪

指……一本も……

ひ……っ……あ



ああああ!

指が増え……っ

中が痙攣けいれんしてる



イキたいの?

ふふ……まだ
イッちやだめだよ

我慢しなさい

できるね?





それ…

…なん…ですか？



我慢しなさいって
言ったはずだよ？



せ…誠司さ…

俺からの
誕生日プレゼント
だよ

ふふ



手錠

カシヤン

シヤッ！

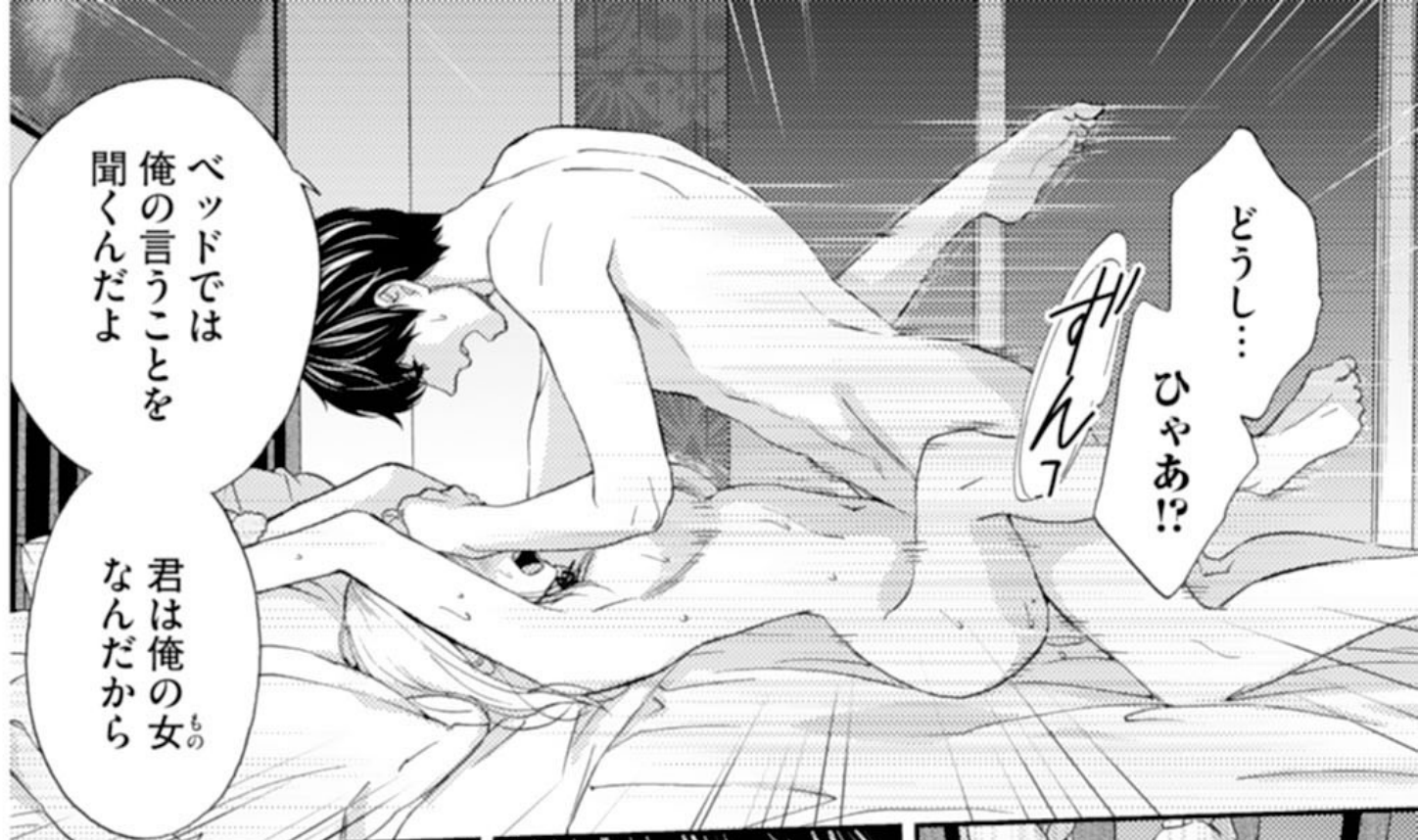
ファーがついてるから
痛くないよ



いやらしい深雪に
ぴったりなアクセサリー
だと思うんだ

ギシ





どうし…

ひゃあ!!

すん

ベッドでは
俺の言うことを
聞くんだよ

君は俺の女
なんだから



す…



は

は



なんでも?

俺の言うとおりに
するの?



は…いっ

わたしは
誠司さんの
ものです…

誠司さんの
仰るとおりにします



わかってるだろ?

か

か

あ

ん

ん

あ

あ

あ

誠司さんに
してもらえる
ことなら

なんでも
嬉しいんです

彼が見られたくない
と言うなら見ない

こんなに可愛い
深雪はたっぷり
虐めてあげないとね

深雪…俺に
虐められたい？

ああ…はい

わたしを
虐めて…

お願いします

虐めてください

彼の嗜虐は
虐待ではなく

わたしに
深い女の悦びを
くれるもの

もっと彼好みの女になりたい

彼が手放したくないと
思うくらいに

深雪が望むなら
どこまでも
虐めてあげる



はう

んっああんっ!

それを決めるのは
俺だ

ほら
いけ!



嬉しい...

...すき...

ぎゅ...



褒めてくれた



上手にイッたね



...あ

あ...あ

くた...



…俺も深雪が
好きだよ

笑うかい？

年甲斐もなく
若い子に恋して
溺れて

みっともないって
自分でも思う



誠司さん…

でも
愛おしくて
たまらないんだ

もう止められ
ないんだよ…



大好き…

愛してるんだよ…

To be continued...



調教系男子 オオカミ様と子猫ちゃん③

著者 あづみ悠羽

©2018 Yuu Adumi

発行 プランタン出版

発売 フランス書院

※本作品の内容はすべてフィクションです。

※本書の無断複写・複製・転載・配信は、著作権法上での
例外を除き禁じられています。